

事前のお知らせ



万灯行列が伝統のまつりを盛り上げる！

～江戸時代から続く伝統の門前市「関のボロ市」が開かれます～

と き	関のボロ市 12月9日(水)午前10時～午後10時、10日(水)午前10時～午後9時ごろ 万灯行列 12月9日(水) 午後7時～午後10時		
と ころ	本立寺(関町北4-16-3) 門前とその周辺	交通案内	西武新宿線「武蔵関駅」北口下車 徒歩3分

9日(水)から、関町北4丁目の本立寺(ほんりゅうじ)で、師走の訪れを告げる年末恒例の門前市「関のボロ市」が始まる。

ボロ市は毎年12月9日のお会式(おえしき)に合わせて開かれるもので、江戸時代中期から約270年続いている歴史ある市。例年2日間で約8万人の人出と約280の露店でにぎわう。また、関のボロ市は平成元年度、練馬区無形民俗文化財に登録された。

9日の夜には日蓮宗の檀徒や一般参加者などが本立寺周辺を練り歩く「万灯(まんどう)行列」も行われる。ボロ市は10日(木)まで開催。



万灯行列の様子(平成24年時のもの)

【関のボロ市の紹介】

日蓮宗の寺院である本立寺で毎年12月9日、日蓮聖人の命日をしのび、お会式の法要が行われる。この9日と翌10日に本立寺の門前で開かれるのが「関のボロ市」。この市は江戸時代中期の宝暦年間(1730年代)から約270年以上も続いている。この「ボロ市」の名前の由来は、関の市で古着屋から買った古着を裂いて草履の緒やわらじのひもを作ったからなどと言われ諸説ある。ボロ市は平成元年度、練馬区無形民俗文化財に登録された。

江戸時代から戦前までの市は、衣類やカマ、クワなどの農機具、ザルやおけなどの生活用品のほか、正月用品などを売り買いする場で、近隣の農家が押し寄せ一年分の生活必需品を買い求めていたという。明治時代には相撲の興行が行われたり、昭和に入るとサーカス小屋や芝居小屋、オートバイの曲芸なども披露したりするなど娯楽性に富んだ市に変化していった。

【普段閑静な住宅街が、買い物客や見物客でにぎわう】

例年、本立寺の門前に約280の露店がずらりと立ち並び、各店からは「いらっしやい!」「できたてで、おいしいよ!」などと威勢のいい声が飛び交う。露店の多くはたこ焼きやお好み焼きなどの食べ物関係の出店で、植木屋や古道具屋の出店は減ってきているという。

露店は午前10時から午後10時(10日は午後9時ごろまで)まで営業。普段は閑静な住宅街である関町は、買い物客や見物客で毎年大きなにぎわいを見せる。

9日には、午後7時から9時までの2時間(予定)万灯行列が行われる。

万灯行列とは、長い傘に花飾りをつけて電飾を施した花万灯と纏(まとい)を中心に、鐘や太鼓を持ったはっぴ姿の人々がにぎやかに街を練り歩くというもの。都内の約20講(講:神仏を祭り、または参詣する同行者で組織する団体のこと)から日蓮宗の代表檀徒や一般参加者などが集まり、武蔵関駅南口周辺を出発して本立寺までの約1kmを練り歩く。

【問い合わせ】

本立寺 電話 03-3920-1384